

91 モーイ親方(ト)(嫁取り)

いいなずけの家の、女をまだ見ないから、女を見る
といて、そのいいなずけの女を。それであの、雄鳥
を持つて行つてね、むこうで喧嘩さして。見に来ると
思うて。向こうの家、とにかく屋敷に入つて、喧嘩さ
しておもしろがつて。その嫁さんが来て見たから、鳥
を取つて逃げて行きよつたらしい。

逃げた後、断りに行くさ。これは氣違いであると、
女の方から断りに来たと。昔はね、嫁、絶対に見せな
い。見せないからね。このモーイという人は、自分の
嫁になる者を見たいといつてね、これ見に行つたら、
どうして見に行くかといつたらね、雄鳥を持つて行つ
て喧嘩さして。この雄鳥はまたね、喧嘩したらね、鳴
いたそうだよ。そしたらこの女は出て来た。この男は
飛び出して来たそうさ。見たから、お家に入つたでし
ょう。それで、鳥を取つて逃げて家に行つた。その女
の方がね、こりや氣違いであるからこれに嫁にさせたら

大変と、もうこれはね返そう。

そうしたら、必ずはね返しに来るといって、向こう
わかつておるさ。そして、門にね、釣りを作つて、自
分で。これを親父に釣りで引つ掛けてね、もう動か
せないそうだよ。引つ張つて。そして、

「どうしてお前はこんなにするか」と。

「釣り針で釣つた髪も外れないのに、なんでこの娘と
離れるわけがあるか」と言つて、またそれがまとま
たわけさね。

「おれが悪かつた。今から嫁にさせるから」。

「させるだろう」と言つたら、

「はい」と。

「もう結んであるよ。今からはこんなことやらんよう
に」。結婚立派にやつたそうさ。

字豊原 仲井真盛幸

類話

字豊原 国吉マツ

字与座 伊敷清保

字真栄平 喜納サト

字新垣 宜野座仁二郎

字名城 新垣武雄

字福地 殿内三吉

字摩文仁 平田金徳